

特別講演

第1日目 10月15日（木） 14:20～15:20

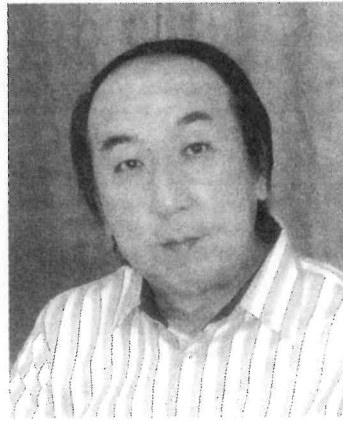
第1会場（ベイシア文化ホール（群馬県民会館）1階 大ホール）

組織と個人をつなぐもの

作家 横山 秀夫

特別講演

組織と個人をつなぐもの



作家

よこやま ひでお
横山 秀夫

推理作家。1957年、東京生まれ。

国際商科大学（現在の東京国際大学）商学部を卒業後、上毛新聞社に入社。主に事件記者として12年間勤務し、日航機墜落事故や幼児誘拐殺害事件などを取材する。

1991年、在職中に執筆した『ルパンの消息』が第9回サントリーミステリー大賞の佳作賞を受賞。これを機に新聞社を退社し、アルバイト生活を送りながら職業作家への道を模索。公募小説に投稿を続ける一方、フリーライターとして取材活動を重ね、戦争をテーマに児童書の執筆や少年漫画の原作などを多数手掛ける。

1998年、『陰の季節』で第5回松本清張賞を受賞し、作家デビュー。2000年には『動機』が第53回推理作家協会賞（短編部門）を受賞。2002年に発表した『半落ち』はミステリーの各種年間アンケートで第1位を獲得した。デビュー作から三作連続で直木賞候補になるも、選考のありかたに疑義を唱えて同賞に決別を宣言。以後、文壇とも距離を置く。

作風は硬質で、推理小説や警察小説の形式をとりつつ、一貫して組織と個人の軋轢を炙り出す。日航機墜落事故の報道現場を活写した『クライマーズ・ハイ』や、太平洋戦争末期の回天特攻隊を描いた『出口のない海』なども例外ではない。作品の多くは映画化、テレビドラマ化され、また海外で翻訳出版されている。